

高松凌雲 たかまつ りょううん 醫師。天保七年十一月二十五日筑後國御原郡生れ、大正五年十月十一日歿（八三—一九六）。通稱權平、莊三郎。石川櫻所、待方洪庵、ヘボンに學ぶ。慶應元年一橋家表醫師から幕府奥醫師となる。二年徳川昭武に隨從して歐洲行、留學生としてパリに滞在した。歸朝後榎本武揚等と五稜郭に據り、病院を開設して敵味方雙方の戰傷者を治療、その數千二百餘といふ。明治二年東京淺草で開業。十二年同愛社を設立して貧民救療に従事、民間福祉事業の先驅を爲した。譯書に、謀安那八公著 『虎列刺病論』（内題「虎列刺病編」明治十一年八月松浦宏出版、詩書房發兌）。

